

新建築あいち

2022. 8月号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付
ホームページ(2022年4月～)URL <http://nu-ae.com>

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25
TEL:0568-34-7775 FAX:0568-34-7797

■ 3年ぶりに開催決定 『建まちセミナー2022』 in 茨城のご案内です

豊かさ再構築 原発・新産業都市形成への道が残した今、
茨城から日本の未来を展望しよう！！

◇9月11日(日) 13:00～

講演会 会場：茨城県立青少年会館・大研修室(水戸市緑町 1-1-18) 開場 13:00～
13:30～13:45 開会のあいさつ 片井克美(新建築全国幹事会議長)
13:45～15:15 「原発ゼロ社会の議論をはじめよう」 乾 康代(新建築全国代表幹事)
15:30～16:30 「“集住空間”のあり様を問い直す」 藤本昌也(新建築全国代表幹事)
16:30～16:45 交流会・視察などの案内

◇9月11日(日) 18:30～

夕食・交流会・宿泊 ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸(水戸市大工町 1-2-1)
シングルルーム(禁煙)(朝食付き)

◇9月12日(月) 視察

大型バスで巡る茨城

(定員 45 名一鋼材と関連をした視察です。バス視察だけの参加はできません)
茨城県会神原アパート(現代計画・藤本昌也氏、水戸市)
東海村、落日荘(岩崎駿介氏、石岡市)

◇参加費

| | |
|------------------------|---------|
| ① 講座/夕食・交流会/宿泊～12日バス視察 | 22,000円 |
| ② 講座/夕食・交流会/宿泊 | 16,000円 |
| ③ 講座/夕食・交流会 | 8,000円 |
| ④ 講座のみ参加 | 1,500円 |

《振込先》

三菱UFJ銀行 江戸川橋支店 (普通) 1170307 新建築家技術者集団 8/10迄

※夕食・宿泊を伴う参加(①～③)キャンセルは、8/25まで。
それ以降はキャンセル料金が発生します。

◇お申し込みは、新建築全国ホームページから <http://nu-au.com> 宜しくお願い致します。
詳細は、別紙「建まちセミナー2022in 茨木」の案内をご覧ください。

■ 「居住福祉と「居住と福祉」」～居住福祉と生活資本の構築(143)

岡本 祥浩

社会経済や人口構造の変化の影響を受けて、所得が増えないなど生活の維持に困窮する人々が増えてきた。こうした状況を反映して「居住福祉」や「居住と福祉」に関心が集まっている。この二つの言葉はよく似ているが、その意味は全く違う。

「居住福祉」は「適切な居住が福祉(幸せ)を導く」を意味するが、「居住と福祉」は「福祉が居住の課題を補う関係」を意味する。後者は言わば、福祉が居住の尻拭い役を果たしていることを意味する。二つの言葉には、予防対策と事後対策と言う違いがある。

本稿では居住の予防的役割を確認したいと思う。『居住福祉を学ぶ』(2022年、東信堂)に「住居の役割とその補完サービス」(p. 15)をまとめているのでそれに従って考えてみよう。表には八つの論点を示しているが、予防的論点として五つの論点を紹介しよう。

第一は「命と身体」を守る論点である。地震や台風などの自然の猛威から身体を守る役割が機能しなければ、救援や救急などの社会的機能を活用しなければならない。更にその機能の違いは復旧や復興に格差をもたらすことを記憶しておかなければならない。

第二は「健康を維持・増進」の論点である。人に適切な居住環境を維持できなければ、心身の疾患や生活習慣の乱れをもたらす。不適切な温熱環境はヒートショックを起こしやすく、浴室などでの溺死・溺水を増やす。精神的健康に大いなる影響を与える人と人との関係や社会とのつながりは、階段や段差、エレベーターや便器・浴槽などの設備の影響を受ける。さらにそれらは看護や介護の提供の質に影響を与える。高齢社会における医療費や福祉費用の削減が話題になって久しいが、適切な居住はそれらの支出削減を実現する。

第三に「疲労の回復と新たな活力」や第四の「次世代の育み」の論点である。日々の疲労回復や次世代の育成の困難は、少子高齢化の深化や疾病の惹起につながる。住居が生活や世帯再生の拠点にならなければならない。

第五に「暮らしの拠点」の論点である。日々の生活は住宅内や世帯内で完結しない。社会が有している就労、教育、商業、医療、行政、文化・芸術、娯楽やスポーツ、公園・緑地などの生活を支える機能を活用する必要がある。またそれらの資源を活用して生活を実現する仕組みや能力の「生活資本」を一人ひとりに構築しなければならない。そうでないと買い物難民や医療難民、教育難民を産むことになる。

「居住福祉」は事後対応ではなく、予防的機能であることを認識しないと、いつまで経っても事後的対応に終始する悪循環から逃れられない。予防的機能を活かす「居住福祉」の発想は安寧な社会創造に欠かせない。

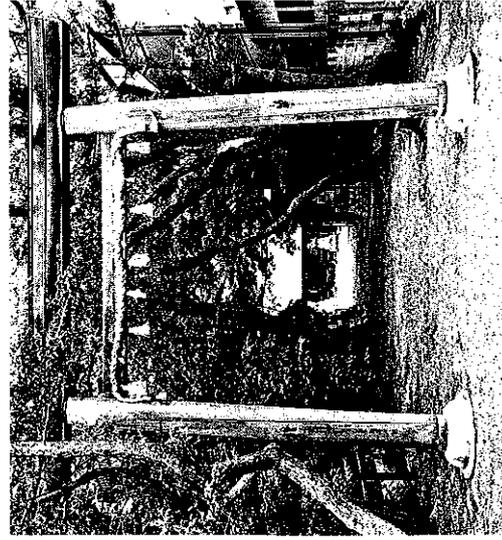
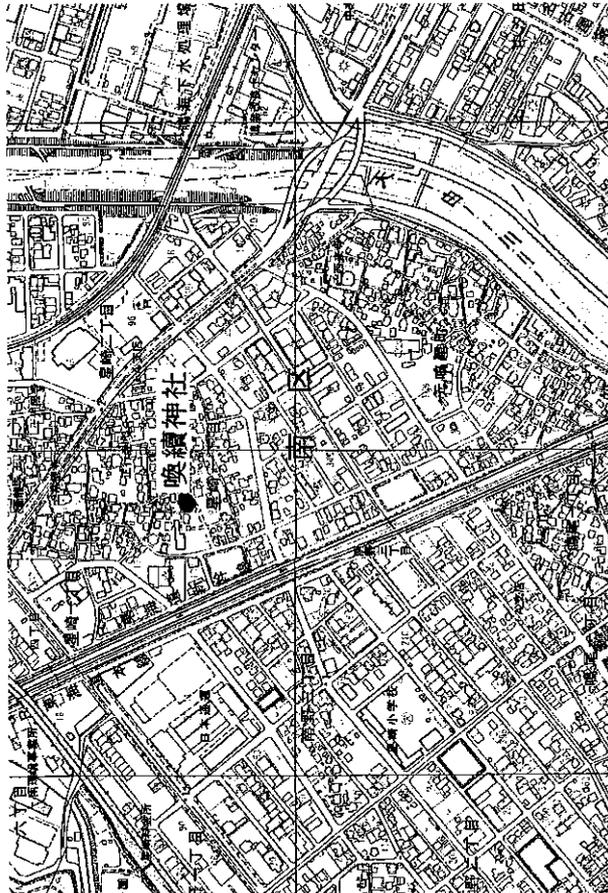
(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ⑧ 南区

喚續神社と日本最古の隕石

南区には、星の名のつく地名がいくつかあります。星園町、星宮町、本星崎、星崎など、かつてはよほどきれいに星空が眺められたのでしょうか。これらの地名はもともとは星崎八カ村とよばれた、荒井、牛毛、笠寺、桜、戸部、南野、本地、山崎の総称を星崎と呼んでいたことに由来します。

星崎一丁目に喚續神社と呼ばれる神社がありますが、この神社には「星石」と呼ばれる隕石が社宝として納められています。



喚續神社の鳥居

寛永9年(1632)、南野村に住む村瀬六兵衛なる者が、堤浜に石が落下するのを見ま

した。おもわず星が降ると認め、持っていた鎌を投げつけたところ、これが石にあたり、一面が欠けたと云われます。この石を持ち帰り代々家に珍藏していましたが、九世の六兵衛が家が穢(けが)れるのではないかと思い、文政12年(1829)喚續神社に献じたと伝えられています。喚續神社はもともとは神社の西側の堤防が度々決壊するので伊勢神宮に祈願したところ、これが効あつたので大永3年(1523)創建されたものですが、納められている隕石は年代のわかる日本最古の隕石といわれています。

